

1 公刊論文等

- ・「WTO/SPS 協定における EU 予防原則の適用の可能性」法学志林 111 巻 1 号 99-138 頁(2013 年)

本稿では、自由市場における健康・生命に対する権利の保護の観点から、食品安全分野に関する政策決定過程での科学の役割について検討し、EU 食品安全分野の予防原則に焦点を当て、EU と WTO における科学に対する考え方の相違について考察した。日本において食品安全政策を展開する際には、食品安全政策の目的に照らして、不可逆性を伴う健康・生命に対する権利保障の観点から、科学の位置づけや役割について考える必要があることを明らかにした。

- ・「EU 食品安全分野の予防原則における健康権の保障——科学的不確実性の議論を中心に——」憲法理論叢書 21 号 225-241 頁(2013 年)

本稿では、EU 食品安全分野の予防原則における科学的な不確実性の議論を通して、予防原則に対する批判について検討した。EU における健康権および「健康の衡平性」の議論を紹介し、「科学的な不確実性」への対応の可能性について考察した。日本においても、科学を用いた政策決定のあり方について議論を重ねた上で、不確実性の状況に応じ、人の健康権の保障という視点を加味しうる意思決定のあり方を問題にする必要性を明らかにした。

- ・「憲法における健康権の保障と食品の安全性の確保」(博士論文)(2015 年)

本稿では、消費者の権利の中でも安全への権利に焦点を当てて、従来の規制方法の問題点について検討した。基準の設定方法として、EU における予防原則の議論を中心に、規制根拠としての科学的証拠とその他の価値との関係について考察した。予防原則は、規制過程における透明性を確保することで国家権力による過度な介入を抑制し、健康権の保障を充実させる可能性を有していることを明らかにした。

- ・「EU とフランスの食品安全分野における予防原則の適用——科学的に不確実な状況における生命・健康権の保障と科学的知見の位置づけ」比較法研究 78 号 292-295 頁(2016 年)

本稿では、EU とフランスの食品安全分野における予防原則に焦点を当て、政策決定過程における科学の役割と生命権・健康権との関係について検討した。EU 食品安全分野の予防原則は、EU 機関と加盟国に適用される一般原則であるが、その司法審査基準は異なり、政策決定過程における科学的知見の役割・位置づけに左右される。日本においても、政策決定過程における科学的知見の役割・位置づけの再考が必要であることを明らかにした。

2 学会報告等

- ・「日本の食品安全基準は遅れている？——日本と EU の食品安全政策における科学的知見の役割——」平成 28 年度筑波大学公開講座「憲法で学ぶ社会——若手憲法学者の最前線——」(2016 年 4 月 9 日)
- ・「EU 食品安全分野の予防原則における健康権の保障——科学的不確実性の議論を中心に——」比較法学会第 79 回総会大陸法部会(2)(2016 年 6 月 4 日)
- ・「『危険ではない=安全』なのか？——食品安全分野における営業の自由と健康権の対立——」平成 29 年度筑波大学公開講座「憲法で学ぶ社会——若手憲法学者の最前線——第四弾」(2017 年 4 月 22 日)